

八幡公はちまんこう（頼らい 山陽さんよう）

結髪從軍弓箭雄 八州草木識威風
白旗不動兵營靜 立馬邊城看亂鴻

結髪けつぱつ 軍ぐんに 從したごうて 弓箭きゆうせん 雄ゆうなり

八州はっしゅうの 草木そうもく 威風いふうを 識しる

語釈 ※八幡公 平安時代後期の武将。源義家のこと。※結髪 髪をはじめて結うこと。成人となること。弓箭 弓と矢。弓矢をとること。※八州 関八州 ※辺城 国境の城。※乱鴻 雁が列を乱して飛ぶこと。

白旗はっき 動うごかず 兵營へいえい 靜しずかなり

馬うまを 辺城へんじょうに 立たてて 乱鴻らんこうを 看みる

通釈 八幡公は、結髪して成人となったころから、軍に従って戦い、弓矢を取つても雄々しく、関八州では草木までもが、その威風を知っている。さて、後三年の役で奥羽に出征したときは、源氏の白旗は動かず、兵士は落ち着いていて、その兵營も静かである。そのとき、八幡公は辺境の城に馬を立てて、空を乱れ飛ぶ雁を見、その下に伏兵のいることを見破った。まことに、八幡公は名将である。